

東日本大震災・薬剤師ボランティア活動報告

市立秋田総合病院 薬剤部

小林 将人

派遣期間：平成23年4月17日（日）～4月23日（土）

派遣場所：岩手県立大船渡病院（岩手県医療局より派遣場所の指定）

主な業務：院内調剤業務全般、入院時持参薬鑑別業務、避難所における薬相談窓口業務

移動手段：自家用車

ルート：東日本大震災レポート 第13報 参照

当院では、日本病院薬剤師会の要請により、3月27日から継続的に岩手県立大船渡病院へ薬剤師を派遣しています。今回、私が4月17日より一週間行った支援活動について報告します。

支援活動の初日、薬剤科工藤科長より「現在、調剤業務は落ち着いてきており、病院で寝泊まりしていた職員が徐々に帰宅できるようになってきました。しかし、帰宅するとまた地震がくるのではないかという不安もあり、帰宅出来ない方もいます。」とのお話を伺い、長期的な支援の必要性を感じました。

17日より全面的に院外処方発行へ切り替えたものの、保険証がない患者は院内処方へ対応するなど、当初院内処方せん枚数が150枚を超える日が続いておりましたが、派遣期間の終了日が近づくにつれて、院外処方への切り替えが進み、調剤業務が落ち着いてきたように思われました。

私が支援活動を行った同時期に外部から派遣された薬剤師は、岡山大2名（岩手県遠野市を拠点に3泊4日で交代）と千葉県田村病院1名であり、我々外部から派遣された薬剤師が調剤業務を支援することによって、薬剤科の薬剤師が支援物資として届けられた医薬品の仕分けなど調剤以外に残された多くの業務を少しでも行うことが出来たのであれば幸いです。

最終日は、近隣薬局の気仙中央薬局の先生方、ボランティアで参加された青森県薬剤師会の先生方と一緒に市内の避難所で支援活動を行いました。避難所で生活されている被災者の中で、体調を崩された方に対して、全国から支援物資として届けられたOTC薬を無償で提供する活動を行いました。具体的には、避難所内に設置した相談窓口において、症状や既往歴、アレルギー歴、服用中の薬剤等を確認し、症状に適するOTC薬を選択して提供しました。風邪薬や胃腸薬、湿布を希望する方が多く、薬を受け取る際に安心した表情をされていたのが印象的でした。被災者の方々から、お礼の言葉を頂いた際には、私でも少しはお役に立てたのかなと感じました。

被災地では復興に向けて作業が進められていますが、完全な復興には相当な期間を要することから、長期的な支援が求められます。被災地や被災者のために出来ることがあれば、今後も支援したいと考えております。

最後に、支援活動の期間中、薬剤科工藤科長をはじめ岩手県立大船渡病院のスタッフの皆様、一緒に避難所で支援活動を行った岩手県薬剤師会及び青森県薬剤師会の方々に大変お世話になり、深く感謝申し上げます。